

# 漁業支援へ窯元入魂

海濱養殖用ブロックを



久慈・小久慈焼の下嶽さん

5年がかりの  
地元砕石使い  
コンブ

久慈市小久慈焼窯元・下嶽さん(67)は約五年かけて海濱養殖用ブロックを試作し、漁業者の注目を集めている。地元の砕石が原料で、従来のブロック比べて海濱の難敵である貝類の付着防止効果が高いなど、効率的な養殖が可能とされる。育った海草はウニ、アワビの餌となり、久慈地方を代表する伝統工芸の技が地域の「つくり育てる漁業」を後押しする。

ブロックは高さ約10cm、幅約22cm、奥行き約15cmで重さ4・6kg。表面に多くの亀裂や穴を付けたことで海水の透過性を高め、貝類が付きにくくする一方、コンブの若芽が根を張る場所を作った。発育率の向上を狙った。従来のブロックは表面

## コンブで... ダイヤモンド鉱脈が作れる

左の写真はコンブを効率よく発生させる特殊なブロックの焼き物です。

真ん中にはそれに発生したマコンブ。約百\*<sub>0</sub>が一個に着きます。

この増殖技術はウニ、アワビの通年生産を可能にします。

ウニ・アワビは海のダイヤモンドと言われます。

写真は岩手日報社記事より転載

## 久慈地方を3Kで活性化

- 1 K : コンブ
- 2 K : 琥珀(こはく)
- 3 K : 穀物(五穀)

昔クンノコ(香の粉)と言われた琥珀(アンバー)は観光に加え、久慈市文化推進の象徴でもあります。

穀物やコンブは東北地方に適した産物で、健康性を増進し医療費を減らす食べ物です。

マコンブ(二年コンブ)は北の海、親潮で上質に育ちます。これの安定生産は食料産業を大きく発展させます。また、海のダイヤは多くの観光客を三陸に呼ぶでしょう。

コンブなど大型の海草類の群を海中林と言います。海中林は食物連鎖で魚介類を増やします。

下の写真は岩手の4大重要港湾の一つ、久慈湾当初の開発イメージ図です。現在丸印の所に延長300mのみ防波堤が設置されています。これの早期推進は産業活性化にかかります。



この防波堤が設置されると日本有数の荒波が寄せる久慈湾は、穏やかな海域になり、コンブなど増殖に適した湾になりますが反面、河川の汚れが心配されます。

すなわち、河川の浄化や森林整備が「尽きないダイヤモンド鉱脈」維持の条件になります。

また中小河川の清浄化は、シミ豆腐、シミ大根、はじめ穀物ブランド化、ホタル、モクズガニやカジカ、鮎、シロウオなど淡水・海域の生物も増やし、多様な産業開発へ大きく貢献します。